

進路だより

2021. 11. 25 (木)

第 3 号

仙台市立高砂中学校

◆あと99日、目標実現のために今できること・すべきことは何か

公立高校入学者選抜・第一次選抜は令和4年3月4日(金)ですが、今日からその日まで残りあと100日を切りました。受験を目指す生徒はこの期間で5教科の勉強をするため、1教科に割り振れる時間は「 $100 \div 5 = 20$ 日」程となります。この20日間で中学校3年分の内容をやるわけですが、このうち、公立高校の過去5年分の過去問を解くのに5日間を使うとすると、残りは15日。また、私立高校を受験する生徒は私立高校の過去問に費やす日もあるため、復習だけに専念できる日数は多くて14日ぐらいと考えておいたほうがいいでしょう。そうすると、各教科の1年間分の内容をやることのできる日数は「 $14 \div 3 \approx 5$ 日」となり、これは他の教科にもいえます。2年生の理科の内容を復習するために用意された日数は5日。3年生の英語の内容を理解するために用意された日数も5日です。1日5時間勉強すると考えると「 $5 \text{時間} \times 5 \text{日} = 25 \text{時間}$ 」ということになります。

こうして計算してみると、残された時間が本当に少ないことに気づけるとと思います。人はいつも「明日からやろう」と実行を先に延ばす癖があります。長いと思っている後期もすぐに終わってしまいます。1日ではなく、1時間を大切に使えるように自分を鍛えていくことが必要です。日々の授業時間50分も貴重な勉強時間になります。

◆「実力養成期」これからの勉強法について

そろそろ入学試験対策も視野にいれましょう。それに欠かせないのが過去問題集です。まだ習っていない単元の内容があると取り組むのが難しく感じるかもしれませんが、今からできる活用法をご紹介します。

1 問題を解かずに出題傾向を分析する

いきなり解こうとせずに、どんな種類の問題がどのくらいの分量で出ているのか眺めてみましょう。

2 解答用紙と試験時間に注目する

まずは「解答用紙」を確認し、問題数と解答欄の大きさ、配点をチェックします。公立高校の場合、およそ20問から30問前後で科目ごとの小問はほぼ毎年変わっていません。試験時間は50分なので見直し時間を5分確保すると平均1問につき2分弱で解く必要があります。私立高校はマークシート方式や記述式など学校によって様々です。

3 同じ大問を過去にさかのぼって見てみる

例えば英語ならリスニング問題を収録年数分すべて聞きながら解いてみましょう。おおまかに問題の出題傾向を探るつもりで聞いてみるとパターンに気付き、メモするポイントを絞ることができそうです。また、長文読解では単語や連語を合わせて1500語以上身につけた上で問題に対応していきましょう。

4 正答率の高い問題から解いてみる

宮城県総合教育センターのホームページでは「令和3年度公立高等学校入学者選抜学力検査の結果分析」を見ることができます。ここは各教科の平均点や得点分布が掲載されており、正答率が高ければ易しく、低ければ難しいことがわかります。科目ごとに、正答率90パーセント以上の問題だけを数年分まとめて解いてみましょう。これが解けたら、80パーセント台、70パーセント台と順に進めていけば、優先して復習すべき単元を見つけられます。優先順位を見つけて学習効率をあげることができます。一方、正答率10パーセント未満の小問はできなくても気にする必要はありません。ただし、記述問題は中間点があるので何か解答しておいたほうが得策です。

*「高校入試分析結果」の活用より (<https://www.pref.miyagi.jp/site/sokyos/kokonyushi-bunseki.html>)

5 弱点は、教科書と単元別問題集で補強する

克服すべき単元が見つかったら、過去問から離れて、教科書や単元別問題集で復習しましょう。

6 本番直前には、5分削って解いてみる

過去問を分析し、学力を養うことができたなら、試験時間を5分短縮して解きましょう。「時間がない」と感じたら、解くスピードを上げる工夫をしてみてください。ミスを防止するためには、見直す習慣を持つことも大事です。要領がわかれば、時間内に得点できる力は着実に上がることでしょう。

